

清八清水

《志茂》

今から約二百年ほど前に、清八という若者が住んでいた。父親が重い病氣にかかり、生死の境に裏山から出る清水が飲みたいというので、清八が裏山をさがしたところ、小瀧のように流れ落ちる清水を見つけた。

早速、その清水を汲み取り、父親に飲ませたところ病氣がよくなり、治って長生きしたといわれる。それからこの清水を、清八清水と呼ぶようになった。非常に冷たいので、一名冷清水ともいう。

今も志茂地内の岩の割目からは、滝のように冷たい清水が湧き出でていて、野良仕事に出ている部落の人々ののどをうるおしている。

(語者 井跡忠兵衛)

うるし清水

《志茂》

うるし清水は、志茂日向から末津久保に通ずる道路の右下にある。昔は、直径三尺ものうるしの大木があつたので、その名がついたといわれる。

今は何代目かのうるしの木が数本跡継のように、のびのびと育っている。清水は最近まで野良仕事の人たちの喉をうるおしていたが、今は清水の跡のみが残っている。

(話者 石井 栄)